



上海事務所

NCB 海外レポート

『中国社会』 デジタル化最新事情 ⑧

～ロボットを導入した話題の AI レストラン in 上海～

◇ はじめに

- ・ ここ数年、中国ではサービス業や製造業を中心に、ロボット導入による自動化の動きが活発化しています。今回は、上海市にある飲食店でのロボットの活用事例を紹介するとともに、中国で自動化が推進される社会的背景についてお伝えします。

◇ 上海市で開店した AI 食堂について

- ・ 2022年7月、上海市内にてロボットを導入した飲食店「熙香 (XI XIANG) AI 食堂」が開店しました。当店は開店以来、地元メディアで取り上げられるなど、注目を集めています。
- ・ この店では、人工知能 (AI) を搭載したロボットが、惣菜の調理や配膳、補充など、調理工程の大部分を人に代わって担っています。なお、人手が必要となる作業は、予め切った調理前の食材をトレーに入れ、専用機械にセットするのみであり、ほとんど不要となっています。



同店舗の外観



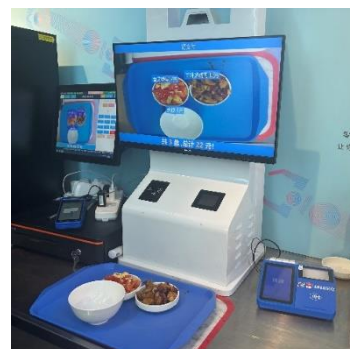
buffet形式の惣菜コーナーに設置されるアーム型ロボット

- ・ 惣菜の配膳や品切れ時の補充等を行う。



厨房に設置される黄色のアーム型ロボット

- ・ トレーにセットされた調理前の食材の調理や出し入れを行う。



精算時の無人レジ

- ・ トレーに乗った惣菜がモニターに投影され、客は写真右手の決済端末で支払う仕組み。

◇ 中国で自動化が進む背景

- ・ 中国で自動化の動きが活発化する背景には、少子高齢化による労働力不足や人件費高騰への対策などが挙げられます。また、中国政府は、第14次5ヵ年計画（2021年に発表された中長期の政策目標）において、2025年迄にロボット分野で世界のイノベーションハブになることを掲げるなど、政府主導で同分野に対する発展を後押ししています。

◇ まとめ

- ・ このように、中国では官民一体となって各種産業の自動化に取り組んでおり、今後、ロボット・AI分野の発展に伴って、自動化の活用シーンは更に増えていくものと予想されます。
- ・ 日本でも、近い将来に飲食店やスーパー、コンビニなどで、ロボットが給仕や商品の陳列作業をするシーンが見られるようになるかもしれません。

2023年3月10日作成

西日本シティ銀行 上海駐在員事務所